

## ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認  
HSK通巻番号644号  
発行 令和7年11月10日  
毎月10日発行 定価100円  
(維持会費を含む)  
編集 〒060-0006  
札幌市中央区北6条西12丁目8番3  
公益財団法人ふきのとう文庫  
電話(011)222-4839  
FAX(011)222-4800  
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会  
細川久美子

### 現下のテーマは「苦境からの脱出」です

公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事代行 二 通 論

一、いま「苦境」です

現下のふきのとう文庫の状況を一言で表現するならば、「苦境」です。そのあらましは以下のとおりシンプルです。

■日本財団からの助成金によって二〇二三年七月二日に、子ども第三の居場所「ふきのとう・こどもクラブ」が開所しました。二〇二四年四月には同財団からの助成金によって専用建屋も建築されました。

■三つのモデル事業のうち「コミニティモデル」として実施した「ふきのとう・こどもクラブ」の助成金は、上限七二〇万円、三年目八〇%までとなっています。

■同財団の助成期間は三年であり、二〇二五年度が最終年度となります。現段階では公の補助金を期待することができず、自分たちの手で資金を調達しなければなりません。

■来春を前に「数百万円が必要なのに、それが無い」という状況は、まさに「苦境」です。

もちろん、このような事態を黙過していたわけではなく、二〇二五年春に、苦境から脱出するためのプロジェクトチーム『自立プロジェクト』を立ち上げ、検討を重ねてきました。公助が期待できないとなれば、自助、共助ということになります。ふきのとう文庫は、もともと民間助成の力を得ていたものの、自助、共助によって今日に至っています。ふきのとう文庫およびふきのとう・こどもクラブの維持と発展を考えたときに、これまで以上の広さと強さで賛助金や寄附金を呼びかけねばなりません。となれば、そのための新たなツールが必要になります。

私は自立プロジェクトの一員として、二〇二五年五月から、ふきのとう文庫の生い立ちと実績、存在意義を多くの人々に知ってもらうことを目的とする動画の構成台本と、これに連動するチラシの作成に関わってきました。本稿執筆時（十月三十日）においては、いずれも最終チェックの段階に入っています。

二、心のバトンをつなぐ

ふきのとう文庫は、創設者の小林静江が、一九六六年三月、東京都練馬区の自宅の一室を開放して子ども文庫を開いたことを端緒としています。その後、家族とともに江別市に住むことになった小林は、ここでも子ども文庫を開き

ました。一九七〇年、脊椎カリエスで長年病床にあった妹・千恵子が他界したことから、子ども文庫を身障児専用で転用することを決意しました。千恵子は、長年寝たきりで義務教育を受けられませんでした。それでも点字を学び、原稿整理の仕事で得た収入を寄付し続けていました。小林は妹の志を受け継ぎ、一九七三年十一月二十七日、小樽市立病院小児科に「院内ふきのとう文庫」を開設しました。この日が、「ふきのとう文庫」の誕生日です。

これ以後小林らは、障がい者の読書権拡大を目指した図書郵送の無料化の運動を進めて、「半額」の実現という成果を上げ、さらに、ボランティアの皆さんの力を得て、手作りの「布の本」や「拡大写本」の製作を続けてきました。こうした活動は高く評価され、内閣総理大臣賞など数々の賞をいただけてきました。直近では二〇二五年度第五十五回野間読書推進賞（団体の部）を受賞しています。

そしていま、子どもたちが自分のリズムで、自由に過ごせる場である「ふきのとう・こどもクラブ」という家庭でも学校でもない第三の居場所への道も拓きました。

私たちは、「すべての子どもに本の喜びを！」という言葉に象徴されるふきのとう文庫の心のバトンを後世につなげていきたいと考えています。そのためにも、完成した動画、チラシを広げ、多くの方からの支援を得て、現下の苦境を乗り越えねばなりません。皆様のご助力を切にお願い申し上げます。



#### プロフィール

一九五一年二月六日札幌郡手稲町（現在の札幌市手稲区手稲本町）に生まれる。札幌西高を経て北海道教育大学札幌分校養護学校教員養成課程卒業後、一九七四年四月より三十五年間にわたり石狩管内小中六校の教員。二〇〇九年四月より、札幌学院大学人文学部人間科学科准教授、教授を経て、二〇一九年四月より札幌学院大学名誉教授となり現在に至る。二〇二一年十月より二〇二四年三月まで札幌大谷大学特任教授、二〇二五年三月まで札幌大谷大学客員教授。専門は特別支援教育学。二〇二五年六月より、社会福祉法人さっぽろひかり福祉会理事長。



## ふきのとう文庫の連携組織

### 「コープさっぽろ」をめぐる物語

公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

「コープさっぽろ」と当文庫が、二〇二三年五月に連携協定を結んだことは、文庫だより一三〇号の紙面でご報告しておりましたが、その「コープさっぽろ」(以前は別名称でしたが、以下この名称に統一)がこの十月で六十周年を迎えました。これを機会に連携に至る経過や背景について補強します。

当文庫が構造的な経済面の閉塞状態から脱却するには、外からの大きな力を借りることが不可欠です。その力として支援を求めたのが「コープさっぽろ」でした。その判断をしたのは代表理事の私です。

その主な理由をあげてみましょう。

#### 一、理念と活動方針の共通性

「コープさっぽろ」は民間の非営利事業体であり、官僚制の薄い合議体であることから、片寄ったイズムに傾斜しにくいこと。又活動の目的を達成するための必須の要件として、子どもを含めた「生活者」と良心的に接することが重要であり、それには実際に活動する人々の善意がベースです。特にボランティア的精神を持つ女性層の力によって支えられる点があります。

第二は、当文庫の創設理事長、小林静江には旧制の津田塾大の出身で、当文庫と同じく札幌を舞台に展開され、戦前では大変先進的(無月謝、男女共学、講師はボランティア等)な夜間学校である「遠友夜学校」を創設した新渡戸稲造を大変尊

敬し、当文庫活動の拠りとしていたことです。

実際に「コープさっぽろ」が結び付くのは、間に北海道大学(以下「北大」と私の父高倉新一郎がいます。

新渡戸稲造は北大の前身である札幌農学校の出身であり、遠友夜学校の精神や実践は、北大農学部、特にその農業経済学科に受け継がれて来ました。当時北大の少なからざる学生や教員が遠友夜学校の講師をボランティアで務めていましたし、特に農業経済学科はその研究教育分野の中に協同組合論があり、遠友夜学校に関わった教員もその理論や実践で消費生活協同組合の橋わたしになったのです。

#### 二、コープさっぽろと私との関係

先出の高倉新一郎は「コープさっぽろ」の創設者なのです。

新一郎は北大農学部経済学科の出身であり、同学科の教授でもあった他、遠友夜学校の運営(特に閉校時)に深く関わっていました。

新一郎は戦後間もない頃、北大の学



旧高倉邸

生部長の任にあり、皆無に近かった学生の福利厚生を考えて「北大生協」を立ち上げ、その実績を基礎として六十年前市民生活共同組合「コープさっぽろ」を創設したのです。今日では全国有数の生活協同組合に成長しています。

かく言う私も、父の影響を受けて北大在職中は「北大生協」の理事を経験しており、父の他界がきっかけで「コープさっぽろ」との関係が深まって、理事となり、その傘下であるコープさっぽろ社会福祉基金の理事長も務めました(当文庫理事長赴任時に退任)。

更に「コープさっぽろ」の現理事長・大見英明氏とは、本人が北大教育学部社会教育ゼミの学生であった頃、私はその直前まで同ゼミの助教授の任あり、その後もゼミに参加していた関係で、以来おりに触れて交流の機会を得ておりました。

今から五年前、コープさっぽろ本部に大見理事長を訪ね、当文庫への支援を要請しました。その時すぐには具体的な支援に至りませんでした。当時コープさっぽろ組織本部長の任にあった横澤秀明氏(しばらくして定年退職)を当文庫の助っ人として送り込んで下さいました。その横澤氏が後に当文庫の業務執行理事に就任することで、連携協定まで到達できたのです。

規模は大きく違いますが、連携の内容を多面的に具体化してお互いに高め合って行けるよう強く願っております。



コープさっぽろ二十四軒店

# ふきのとう・こどもクラブの力を借ります！

ふきのとう文庫ボランティアさんの力を借りて

星野 康

「中学生はこれを読め！」これはくすみ書房店主、故久住邦晴さんがはじめ、全国に広がった読書フェアです。聞いたことがある人は多いと思います。

さて、ふきのとう・こどもクラブには毎月「おすめの二十冊」が届きます。もちろん選本はふきのとう文庫ボランティアのお母さんたちです。仕事の合間を縫って、子ども達の顔を思い浮かべながら選んでくれています。

布の本や拡大写本と一緒に届けられた本は子ども達にとっても楽しみの一つ。これがきっかけになってふきのとう文庫へ本を借りに行く子どももいます。毎月の誕生会でも読み聞かせや紙芝居は定番となってきました。

このような取り組みを通じ、本と触れ合うことが楽しみになっていくようになればいいと思います。



# ふきのとう・こどもクラブ 秋のイベント 北大植物園を探偵しよう

二〇二五年十二月三日(月・祝)

今年の北大植物園の開園最終日。この日に合わせて、ふきのとう・こどもクラブでは秋のイベント「北大植物園を探偵しよう」を行いました。



## ◆ スタッフ紹介 ◆

ほむほむこ

前谷 福美



ふきのとう・こどもクラブのスタッフになり三年が過ぎました。たくさん子ども達と知り合い、楽しい日々を送っているところです。

相変わらず子ども達の放課後は、習い事、塾、お友達との交流と本当に忙しい日々です。

こどもクラブに「ただいま」と帰ってきたら、まじはほっこりとして、そして個々の生活が始まります。

異年齢集団で生活をしているので、毎日が平和な日々というわけでもなく、たまには色々なトラブルも勿論あります。そんなとき子ども達は考えたり悩んだり、選択したりして一人ではできなくても仲間を借りて解決、実現できることを学んでいます。

私も子ども達と共に学んでいきたいといつも考えています。

また、「ほむほむ」にと思う生活が、子ども、大人にとっても「居心地が良い」のではと最近思っています。今年も、これからも体力が続く限り、子ども達に昔遊びを伝えていきたいと思っています。



自己紹介

隼野 遼

今年の六月からふきのとうこどもクラブにスタッフとして関わっている隼野です。

「第三の居場所」の活動を通して、「遊び」について考えることが増えました。

インターネットの普及によって一人でも時間を消費できるようになった反面、適切に扱いきれず、たくさん遊びに触れる機会がなくなって失われてきているようにも思います。

他のスタッフさんや子どもたちに支えられながらですが、少しずつでも子どもたちの選択肢を増やすことができるように頑張っていきたいです。

ふきのとう・こどもクラブへ

林 奈津子



私の前職は、小学校の保健室と共同児童保育所です。

私の子どもの頃は、物はなかったけれど路地裏には子どもがあふれ、大人も高度経済成長で活気がありました。時代や社会の変化は目まぐるしいけれど、今も昔も子どもたちからパワーをもらえることの幸せを感じています。

ふきのとうの子どもたちと、おやつを作ったり昔遊びを一緒に出来たりしたら楽しいかなと思っています。

## ☆さっぽろ市民文庫の最新「ニュース」

### 二〇二五年度赤い羽根街頭募金活動に参加しました

二〇二五年十月一日～八日

十月一日から八日まで札幌市内中心部で実施されました「赤い羽根街頭募金活動」に、布グループ「たんぽぽ」から四名の方と高倉代表理事も参加しました。趣旨は社会福祉の精神を広く市民に理解していただき、寄せられた募金を様々な福祉活動に助成することで、共に支えあうより豊かな「たんぽぽ」の街を築いていこうというものです。街頭募金は広く市民の善意を集集し、地域に根ざした福祉発展のために募金をお願いするものです。

ふきのとう文庫の活動は皆さまから寄せられた、赤い羽根共同募金により支えられております。善意と助け合いに深く感謝いたします。



### 福本ゆめ「二胡とかたりのひょうりゃい」

二〇二五年七月六日

七月六日猛暑の中、福本ゆめ「二胡とかたりのひととき」が行われました。大人二十二人・子ども十二人の方々が集まりました。多目的ホールでの初めての二胡の演奏会です。二胡演奏者・福本ゆめさんは一九九七年に二胡の音色に出会い、趣味で続けていたチェロを二胡に持ち替えて、一九九九年二胡演奏者・ヤン・シンシン氏の出会いにより二胡奏者として活躍しています。二〇二二年「夢の虹コンサート」札幌コンサートホールで開催。「sapporo city JAZZ 創生イースト」にも出演し

ています。道内七か所に「二胡レッスンルーム夢二胡」を展開し、後進の育成に貢献しています。今回は「ロータススイーツ」の皆さんもコラボします。二胡とは、中国の伝統的な擦弦楽器です。二本の馬の弦を馬の尾の毛で作られた弓で擦ること音を出します。参加者の子どもたちは二胡の音色は初めてなのでとても興味深々です。最初の曲は♪蘇州夜曲♪大人は聞き覚えるのある歌謡曲です。続いては♪浜辺の歌♪日本の歌百選に選定されている叙情歌です。福本ゆめさんによる「絵本の読み聞かせ はったりへびい」です。とてもかわいいうへびさんのお話に子ども達も聞き入っていました。次に子ども達も大好きな♪トトロ・さんぽ♪マラカスをもち踊りながら聞いていました。その後も数曲演奏され一時間以上の間、子どもも大人も二胡の演奏に癒されていました。次回十二月七日に行われますのでお楽しみに！



毎年恒例の演奏会が八月三日行われました。連日の猛暑の中、大人二十人・子ども十一人の方々が生の弦楽四重奏を楽しましました。札幌シンフォニエッタは一九八三年に結成されたアマチュアオーケストラです。「シンフォニエッタ」とは小さな交響楽団の意味です。第一ヴァイオリン・第二ヴァイオリン・チェロ・ヴィオラのカルテット演奏です。楽器とメンバーの紹介から始まりまし

### 札幌シンフォニエッタメンバーと仲間たちによる弦楽四重奏

二〇二五年八月三日

た。♪デイベルテイメントK.V. 136 第一楽章♪続いてみんなが大好きな♪となりエットロメヌエットロメヌ♪他全八曲です。一時間にわたり音楽に癒される時間となりました。

た。♪デイベルテイメントK.V. 136 第一楽章♪続いてみんなが大好きな♪となりエットロメヌエットロメヌ♪他全八曲です。一時間にわたり音楽に癒される時間となりました。



### 手づくり遊び・科学遊びシリーズ

#### No.1 「スライムをつくるぞー!」

二〇二五年八月二十四日

八月二十四日夏休み最後の休日に久しぶりの手づくり遊びが開催されました。科学遊びシリーズ一回目は子どもが大好きな「スライム」作りに五組の親子が参加しました。斉藤姉さんが材料を準備してくれています。「スライム」は色々な材料を変えることで「ムチュムチ」「ふわふわ」「パチパチ」「ゴリゴリ」など触り心地や音の違いがたたくさん生まれます。材料はせんたくのり・ホウ砂水・ボンド・絵具・スパンコールです。説明書を読みながらどんな作業を進めていきます。斉藤さんが指導しながら回ります。どんどん力を込めてこねていくと固まってきてスライムらしくなってきました。親子で頑張つて二種類のスライムをつくりました。次回の手作り遊びは二月を予定していますので、お楽しみに！



新しく参加されたボランティアさんの思い

## 楽しみの図書館ボランティアに参加して

図書館ボランティア（水曜） 仲村 顕子

今年五月の新聞記事で、ふきのとう文庫を知り訪ねてみました。始めに目に入ったのは、木がいっぱい空間。やわらかな光。スタッフの方々の明るい声かけと笑顔。それらに緊張がほぐれ、次に壁と棚いっぱいの本にときめきました。幸運なことにボランティアの一員に加えて頂き、毎回学ぶこと、出会いの喜びを味わっています。誰もが来館者さんであり、心なごむふれあいの場を大切に、私もそのお手伝いをしていきたいです。



図書館ボランティア（日曜） 植田 泉

小さなころから本が大好きでした（ただし、読んだ内容を覚えておくのが苦手で、特技は同じ本を何度読んでも新鮮に感じられることです）。わが子にも本の楽しさを知ってほしくて、出産前からお腹に読み聞かせをしていたくらいです。ふきのとう図書館でボランティアを始めさせていただき、選んだ本を持ってカウンターに来るときの、お子さん方のにこにこ笑顔がまぶしくてたまりません。よろしく願いいたします。

図書館ボランティア（水曜） 道脇久仁子

以前より自分の時間が持てる様になつたら本に関われる事に参加出来たらと思っていたところ八月二十九日道新の「ふきのとう文庫ボランティア募集」に目が止まり応募しました。一日の読書時間が減りつつある今だからこそ多くの若い世代の親達・子供達に読書の持つ力を発信していつてもらう場として「ふきのとう文庫」が今後も継続して繋がれてゆく一端をボランティア活動を通して担えられたら嬉しい限りです。

## 布の本の製作に参加して

布の本 能戸 美穂

以前から、布を使い何かを作る事（手芸）が好きで、色々携わってきました。この度、テレビや新聞の記事を見て、絵本作りができる場所がある事を知り参加しました。始めてみると、丁寧に細やかな作業の積み重ねで、完成までの道のりは遠いものが、あります。途中で挫折することなく、作り上げ、どなたかの手渡し、喜んでもらえることを、夢みて、続けてみようと思います。皆様、よろしくお願い致します。

布の本 小田部広子

ふきのとう文庫で布絵本を製作しているボランティアがある事を知り、説明会に訪れました。紹介して頂いた本はとても可愛らしく、とはいえ自分が作れるとは到底思えないような物でしたが、自分が作った本を、小さなお子さんが手にして、心を育んで貰える時が来るとしたら、それは夢のような出来事だと心躍らせ、老眼と戦いつつ、ゆっくりながら針を進めております。

布の本 内田 倫未

きっかけ  
みんなテレを見て、直感でやってみたいと思いました。  
思い  
手に取った方が、手作りの温もりを感じながら、可愛い！楽しい！凄いと、私と同じ感動を味わって頂けたら嬉しいです。  
笑顔になる姿を想像しながら、私自身も楽しんで取り組んでいきたいと思っております。

布の本 白山恵利子

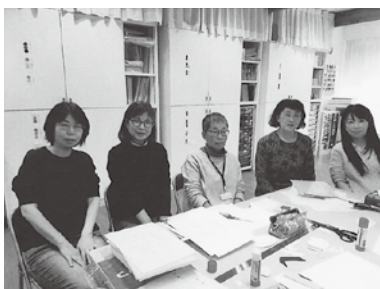
テレビ放送を見たのがこの活動を知ったきっかけです。仕事を引退して以来、初めて手応えのある時間が過ごせています。ボランティアの皆さんの楽しい雰囲気もとても好きです。また、指導してくださる方々のやさしい手ほどきにも、きびしい「ダメ出し」にも感謝しています。まだ初心者ですが、スキルアップしながらずっと続けていきたいと思えます。

布の本 長原 京子

なんちゃって手作り作品ばかりで子育てを乗り切り、最後にフェルトを使ってから、うん十年、ボランティア募集に「好きな手仕事で和気あいあい、そして子どもたちへ作品が届けられる♡」軽い気持ちで説明会へ、ところがどっこい、プロ集団の真っ只中、私の技術でどうにかなるのか？えい、まずはやってみて考えよう。よちよち歩き老眼鏡のあかちゃんです。

布の本 熊木 直美

いつか布絵本作りに携わってみたい、という想いがついに叶いました。  
実際手に取って見せていただいた布絵本は、「これが手作り!？」と驚くほど丁寧で、きれいにできていました。細かい作業は好きな方ですが、実物を見るとちよつと不安にもなりました。  
布絵本を待っている人がたくさんいると伺っています。長年の想いを力に変えて、皆さんの一員になれるよう頑張ります。



# 賛助費、寄附、寄贈ご芳名・行事一覧

## 2025年7月以降賛助会費納入一覧

和泉 尚吾	市川 大祐	小田嶋文彦	河野 智美
下澤 彩野	頭川 恵子	杉浦 正人	武田 育子
田辺 敏子	田邊 未来	時任 顕正	橋場ゆきえ
林 規子	廣澤 洋子	藤田 宮子	和野 徳子
南向 円乘	神内 紀子	國岡 信子	中山 道夫
八島 昭雄	土屋 淑子	鎌田由紀子	中島 絃子
村田 一枝	櫻井 彩子	羽磨 尚實	遠藤知恵子
工藤 良行	佐々木順子		

## 法人賛助会費納入一覧

(株)サン・アイクリーン会長・三田剛己  
 KUMON桑園教室・田頭 愛  
 おのだ眼科  
 けんぶち町絵本の里を創ろう会  
 ちいさなえほんやひだまり・青田正徳  
 北海学園大学同窓会  
 リコージャパン(株)

## 2025年7月以降寄附一覧

飯塚 卓治	大野 公子	金 仁子	熊野 清子
河野 智美	染原 正民	小間海多喜子	藤岡 博
門馬 公生	山下 道子		

## (団体)

生活クラブ生活協同組合  
 全国障害者問題研究会・北海道支部

## 2025年7月以降寄贈一覧

7月2日	童心社	絵本	1冊
7月6日	アトリエ・ポミエ	絵本	1冊
7月15日	ASA	絵本	1冊
7月15日	林下 柘子	絵本	1冊
7月25日	童心社	児童書	55冊
8月10日	松田佐江子	DVD	80冊
8月13日	竹田 光希	絵本	1冊
8月31日	鳳 倫子	絵本	1冊
9月5日	童心社	絵本	17冊
9月16日	杉下 清次	児童書	1冊
		乳製品等	1冊

## 10月15日 コアレックス(株)

10月15日	童心社	トイレットペーパー	11冊
10月19日	童心社	ティッシュペーパー	1冊
10月26日	偕成社	キッチンタオル	1冊
10月28日	福田 都代	絵本	1冊
	山田 隼澄・晴葵	絵本	15冊
	図書館ネットワークサービス	絵本	1冊
	図書館ネットワークサービス	絵本・児童書	11冊

## 行事一覧

7月1日	桑園小学校2年生150名	生活科授業のため来館
7月6日	二胡演奏会	
7月15日	運営会議	
7月20日	おはなし会	
7月27日	トトロおじさんバラエティショー	
8月3日	札幌シンフォニーエッタ演奏会	
8月10日	うたう会	
8月17日	教育大学岩見沢校 学生8名・引率1名	
8月19日	おはなし会	
8月24日	運営会議	
9月7日	手作り遊び	
9月16日	世界の歌と楽器の演奏会	
9月21日	運営会議	
9月28日	おはなし会	
10月5日	人形劇	
10月7日	井上美豊子と楽しもう	
10月12日	理事会	
10月19日	アンサンブルフラテ演奏会	
10月26日	おはなし会	
	評議員会	

## ご 計 報

ふきのとう文庫参与 水口 忠さんが去る九月十四日逝去されました(九十五才)。  
 水口さんは、道内義務教育校の教諭・校長や余市町立図書館長を歴任され、長年にわたり当文庫の評議員を務めていただきました。  
 当文庫の運営にご尽力をたまわりましたことに対し心よりの御礼と哀悼の意を表します。

## —— 布の本テキスト・材料セット価格表 ——

材料セットには作り方説明書を同封しています。

テキストNo	布の本	テキスト	材料セット	テキストNo	布の本	テキスト	材料セット	テキストNo	布の本	テキスト	材料セット
11	かくれんぼだあれ	200円	販売終了	15	おかあさん	なし	4360円	12	MY BOOK	200円	3320円
					どうぶつ	なし	5560円			このいろなあに	200円
13	のりもの	200円	1620円	16	まる	200円	3320円	13	ジャンケンサイコロ	遊具	600円
	だれのうち	200円	3320円		むし	200円	2230円		遊具	やさいセット(8種)	なし
14	Greeting	200円	3030円	17	ちいさいおおきい	200円	3030円	14	くだものセット(7種)	遊具	500円
	おやつ	200円	1720円		さかな	200円	1720円			ばあ!	なし
					わっ!	なし	1720円				

# 収支計算書

令和7年4月1日から9月30日

(単位 円)

支出の部	予 算	9月末まで	前期決算	前々期決算
1. 管理費 計	13,510,000	6,942,473	13,776,663	11,679,425
給料手当	7,500,000	3,423,905	7,111,500	6,357,829
法定福利費	430,000	1,114,720	454,458	339,414
旅費交通費	100,000	1,114,720	346,260	34,556
会議費	450,000	0	436,074	261,417
消耗品費	450,000	0	609,318	816,644
通信費	600,000	0	653,930	552,971
水道光熱費	1,450,000	9,260,000	1,249,062	1,130,201
租税公課	80,000	1,400,000	82,400	24,700
保険料	460,000	100,000	750,368	399,820
清掃費等	150,000	6,760,000	124,917	124,917
除排雪費	220,000	0	220,000	220,000
役員報酬	0	1,000,000	0	0
諸謝金	80,000	765,910	63,500	46,500
雑費	150,000	249,736	160,654	172,631
営繕費	0	12,842,417	29,700	0
支払手数料	1,300,000	0	1,387,755	1,182,625
交際費	80,000	0	83,967	0
諸会費	10,000	0	12,800	15,200
2. 事業費 計	3,430,000	1,859,521	53,247,052	2,107,529
①図書運営費	650,000	0	621,763	477,802
②布の本制作費	1,050,000	0	1,539,543	747,065
③拡大写本制作費	320,000	0	256,015	373,710
④第3の居場所	680,000	0	0	0
⑤研修費	20,000	0	16,120	5,000
⑥機関誌発行	460,000	412,042	411,541	257,462
⑦子ども催事費	80,000	43,634	71,030	33,190
⑧展示会開催費	50,000	0	50,000	50,000
⑨普及・販促活動費	120,000	0	177,600	163,300
⑩増床関連費	0	0	50,103,440	0
当期支出合計	16,940,000	8,801,994	67,023,715	13,786,914
当期収支差引額	0	4,207,583	823,216	2,486,888

四月～九月期までの累計収支の内容は、四月期より新館費用が積算されておりますが、ほぼ前年度同額の収入・支出を維持できており、収支は昨年並みの進行です。収入の差異の大きいところは、日本財団からの活動助成(六〇万)が未承認となり、賛助会員の個人・団体の加入と会費が伸び悩んでいることです。支出は子どもクラブスタッフ等の人件費が最賃改訂で四・五%(四三万)増加したこと、水道光熱費は、新館稼働含め九・三%の省エネコストで抑えられております。新館に伴う支払い手数料(登記・セコム)などが増えたことがありますが、支出TOではコントロールされて推移しております。収支は十四二〇・八万(前年十四〇一・六万)となり、新館増設での運営見通しが立ち、二〇二六年度での自立財源対策が極めて重要となっております。

## 決算報告

(単位 円)

収入の部	予 算	9月末まで	前期決算	前々期決算
1. 賛助会員収入	2,500,000	1,452,720	2,044,000	1,878,300
①個人賛助会員	2,000,000	338,000	1,758,000	1,718,300
②法人賛助会員	500,000	1,114,720	286,000	160,000
2. 寄附金等	3,500,000	0	3,817,068	4,194,908
①寄附金	2,500,000	0	3,417,068	3,894,908
②その他助成金(くみん共済)	1,000,000	0	400,000	300,000
3. 助成金	8,940,000	15,385,910	60,014,130	8,365,200
①共同募金会配分金	1,400,000	100,000	1,400,000	1,400,000
②道新福祉基金	100,000	6,760,000	100,000	100,000
③その他(コープ共済他)	6,440,000	6,760,000	8,180,000	6,865,200
④日本財団 増床助成	0	0	50,000,000	0
⑤日本生命財団	300,000	1,000,000	334,130	0
⑥その他(団体・法人)	700,000	765,910	0	0
4. 事業収入	2,000,000	6,947	1,967,110	1,835,304
5. 雑収入	0	12,842,417	4,623	90
当期収入合計	16,940,000	13,009,577	67,842,308	16,273,712



新しい拡大写本できました。



こねて伸ばして

ヨシタケ シンスケ 作

命をつなげ! ドクターヘリ

岩貞 るみこ 作

パンどろぼう

柴田 ケイコ 作

ぼくは犬や

ペク・ヒナ 作

にげてさがして

ヨシタケ シンスケ 作

ダブスおばあさんと三匹のおはなし

ヒュー・ロフティング 作

コロポックル絵物語

有川 浩 作

## ◆野間読書推進賞受賞

九月十九日、二〇二五年度第五十五回「野間読書推進賞選考委員会」において、団体のふきのとう文庫の受賞が決定され連絡が入りました。

八月に行われた事業委員会における第一次選考委員会では、応募十一団体の中から九団体が選考され、最終選考委員会で二〇二五年度団体の部において、団体推進賞を受賞することとなりました。選考理由としては、特色ある私立バリアフリー図書館で、障がい者の有無に関わらず子どもたちが立ち寄れる場所になっていること、布の本・拡大写本の製作と地域に役立つ活用が行われている。創設者の小林静江さんが草の根文庫から始めたその志をしっかりと引継ぎ活動している事も評価されました。

「なぜ、今まで推薦されなかった？」との選考委員からの声も上がったようです。贈呈式は十一月七日（金）午前十一時から東京にて行なわれ、高倉代表理事と高倉理事二人で参加しました。



## ふきのとう文庫

### つなげる賛助会員活動ご加入のお願い

公益財団法人ふきのとう文庫は、運転資金の多くの部分を賛助会員皆様の賛助会費で支えられております。

活動は、こども図書館・布の本製作・拡大写本製作・イベント・こどもクラブ活動など、地域の子どものために役に立つバリアフリーな図書館を目指しています。賛助会員は個人・法人団体様など多くの皆様にご参加をお願いし、地域になくはない持続可能な文庫活動を目指して参ります。

賛助会員へご加入しご協力賜りますようお願い申し上げます。

### 〈賛助会費の内容〉

- ①個人賛助会員A…一万円/年×任意の口数
  - ②個人賛助会員B…三千元/年×任意の口数
  - ③法人・団体賛助会員A…十万円/年×任意の口数
  - ④法人・団体賛助会員B…五万円/年×任意の口数
  - ⑤その他（上記以外の金額、口数）
- ※単発のご寄付もお願いしております。

### 〈賛助会費、ご寄付のお申し込み方法〉

- 電話でのお申込み  
〇一―二二二―四八三九
- メールでのお申込み  
fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp
- インターネットからのお申込み  
<https://forms.gle/93KGwixYtrcQBQSV6>

## あてがき

今年も活動ボランティアさん（図書・布の本）を募集したところ、九名もの応募があり、こども達のすこやかな成長を願う皆さんの広がりができたことはいずれの限りです。一三七号では、新参加九名のボランティアさんの活動するにあたっての「思い」を寄せていただきました。また、ふきのとう文庫活動を多くの皆様に知っていただくPR動画が完成しました。YouTube・DVD/インスタグラム等で紹介しておりますので、多くの方々に活動を知っていただき、ご利用とご協力の広がりを目指していきます。



PR動画できました

横澤 記

## 編集 公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北6条西12丁目8番3  
☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800  
<http://www.fukinotou.org>  
E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp  
令和7年11月10日 発行  
毎月10日発行 定価100円（維持会費を含む）

昭和48年1月13日 第三種郵便物承認  
HSK通巻644号  
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会  
細川 久美子

郵便振替=02720-3-2300 銀行口座=北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、“北海道共同募金会の配分”により刊行しています。  
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。